

# 大阿賀橋周辺の阿賀野川にねぐらをとる コハクチョウの個体数変化について

小林 博隆\* 田村智恵子

## 1. はじめに

阿賀野川流域(小杉～六郷)では、ガンカモ類の生息調査(以下ガンカモ調査と略す)においてガンカモ類の個体数が毎年調査されている。コハクチョウは、ここ5年間の調査結果では、1,130～2,063羽と、まとまった数の飛来数が報告されている。筆者らは、コハクチョウの飛来期間中、個体数がどのように変化しているのかを把握するため、ハクチョウ類及びガン類の調査を行った。また本調査は、新潟県水鳥湖沼ネットワークと連携し、越後平野全体の個体群動態を把握する目的で行ったが、今回は阿賀野川での結果のみを報告する。

## 2. 方法

### (1)調査地

阿賀野川河口から新潟市、阿賀野市および五泉市にかけての最下流域では、ハクチョウ類が数ヶ所でねぐらをとっていることが知られている。今回はガンカモ調査の調査地でもあり、河口から10km程にある大阿賀橋周辺に見られる中州とその上流域2km程のエリアを調査地とした。また、それより上流側の河口から14kmにある横雲橋周辺や近隣の堤内地についても可能な限りカウントを行った。



図1. 調査地点図

### (2)調査方法

調査地点には日の出前から待機し、識別が可能となった段階でねぐらをとっている個体数を数えた。カウントは、調査地全体を見渡すことができる右岸側(北区岡方地区)から双眼鏡および望遠鏡を用いて行った。調査対象はコハクチョウ及びオオハクチョウのハクチョウ類と、ガン類とした。また調査中に上空を通過した個体についても確認を行った。なおヒシクイについては、越後平野で見られる個体群のほとんどが亜種オオヒシクイであるため、以下の記述はオオヒシクイとする。

### (3)調査期間

調査は、コハクチョウが調査地に飛来している期間とし、平成25年10月から平成26年3月の毎週金曜日に計26回実施した。

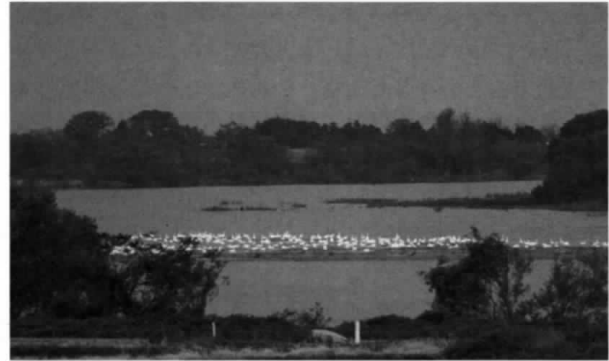


図2. 調査地点の様子

## 3. 結果

### (1)コハクチョウ

平成25年度に確認されたコハクチョウの調査結果は、図3のとおりである。調査開始の10月4日から確認され、11月に入ると2,000羽近くまで見られるようになった。その後は週によってばらつきはあるものの、2,000羽前後がねぐらとして利用していた。1月31日は風が強く、調査地での確認数は少なかったが、周辺の水田に分散してねぐらをとっている様子が確認された。2月14日以降は個体数が減少し、2月28日には確認できなかった。3月21日には移動途中で立ち寄ったと思われる4羽を確認した。またオオハクチョウは一度も確認できなかった。

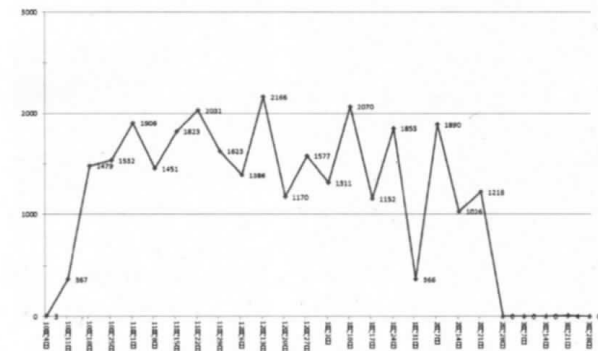


図3. シーズンを通してのコハクチョウの個体数変化

### (2)ガン類

ガン類は、マガン、オオヒシクイ、シジュウカラガンの3種が確認された。いずれも調査期間を通して恒常的な確認には至らなかった。シジュウカラガンは、平成24年度のガンカモ調査時に104羽の記録があるが、本調査でも2月14日にねぐらをとっていた256羽が確認され、また福島潟から飛来したものと推測される41羽と合流し、297羽が近隣の堤内地に降り立ったところを確認した。

### (3)近隣のねぐらの利用状況について

調査地上流側の横雲橋周辺および横雲橋下流右岸の堤

\* 新潟市北区早通2-6-3

内地でもコハクチョウのまとまったねぐらが確認された。それらの結果をまとめたものを表1に示す。なおデータはシーズンを通して確認できていないため今年度の値は参考値とした。横雲橋下流右岸の堤内地にある水田では、調査期間の途中から水がはられたこともあり、11月から1月にかけてまとまった数が確認された。また水田が全面結水したことが2回あったが、その時にはねぐらをとる個体は確認できなかった。

#### 4. 考察

##### (1)近隣のねぐらとの関係

コハクチョウは条件が良いと水をはった水田などでもまとまったねぐらをとることがあり、調査期間中にも横雲橋下流右岸の堤内地で水をはった水田においては多くの個体が観察されている。しかし、調査期間を通しての観察では、水田全体が結水するとねぐらをとる個体は見られなくなり、その際に本調査地の個体数が増加していた。越冬期間を通し調査地周辺に好条件のねぐら適地が出現した場合は、臨機応変にねぐらを使い分けしていると推測される。



図4. シジュウカラガンの様子

##### (2)ガン類の動向

オオヒシクイは調査期間中で7回の記録があるが、そのうちの5回は上空通過の記録であり、おそらく福島潟から飛び立った個体群が餌場や近隣の湖沼に移動する際に目撃されたものと思われる。また調査地でねぐらをとっている個体は、移動途中に立ち寄った個体である可能性が高いと思われる。

表1. コハクチョウ・ガン類の確認状況

		10月4日	10月11日	10月18日	10月25日	11月1日	11月8日	11月15日	11月22日	11月29日	12月6日	12月13日	12月20日	12月27日
コハクチョウ	大阿賀橋周辺	3	367	1479	1532	1906	1451	1823	2031	1623	1386	2166	1170	1577
	横雲橋周辺【参考値】	-	-	-	-	191	-	-	124	-	108	-	2	0
	堤内地水田【参考値】	-	-	-	-	0	-	-	501	-	166	-	806	-
小計		3	367	1479	1532	2097	1451	1823	2656	1623	1660	2166	1978	1577
オオヒシクイ		0	0	0	0	7	0	2	16	0	0	0	0	0
マガン		2	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シジュウカラガン		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		1月3日	1月10日	1月17日	1月24日	1月31日	2月7日	2月14日	2月21日	2月28日	3月7日	3月14日	3月21日	3月28日
コハクチョウ	大阿賀橋周辺	1311	2070	1149	1853	366	1890	1026	1216	0	0	0	4	0
	横雲橋周辺【参考値】	18	不明	184	500±	186	0	327	219	12	0	0	0	0
	堤内地水田【参考値】	856	0(結水)	435	400±	136	0(結水)	82	253	0	0	0	0	0
小計		2185	2070	1768	2753±	688	1890	1435	1688	12	0	0	4	0
オオヒシクイ		16	0	0	0	6	0	29	1	0	0	0	0	0
マガン		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
シジュウカラガン		0	0	0	0	0	0	297	0	0	0	0	0	0

注:「-」の項目は未調査

シジュウカラガンは、2年連続で飛来しているが、平成24年度は、周辺水田なども含め、しばらく滞在していた情報もある。日本に飛来する個体数の増加とあわせて、今後継続的に観察していく必要がある。

マガンは調査期間中で3回確認されたが、いずれの際も少数で、オオヒシクイ同様に、移動途中に立ち寄った個体の可能性が高いと思われる。

##### (3)ねぐらへの人為的影響

越冬期間中の人為的な影響としては、出漁による舟と狩猟があげられる。舟の影響に関しては、秋期には日の出前や暗いうちから灯りをつけて出漁する様子も観察され、その際に舟の進行方向によってはコハクチョウたちが飛び立つ様子を確認した。しかし、越冬期間を通しての飛来数に大きな変動はなく、コハクチョウたちがねぐらに利用する際の影響は、少ないものと推測される。狩猟の影響については、狩猟期間中であってもコハクチョウの個体数に大きな変化は見られなかったが、カモ類に関しては狩猟期間の前後で見られる数が大きく変化していた。また、コハクチョウに関しても、発砲音に驚いて飛び立つなどの行動が観察された。

#### 5. 最後に

今回調査した大阿賀橋周辺だけでも、シーズンを通しておよそ2,000羽がねぐらとして利用していることが改めて確認された。阿賀野川河口域は、日本の重要湿地500にも選定されている。今回の調査地も含めた阿賀野川河口域は様々な生き物が生活しており、一体的な保全策が必要である。今年度も、新潟県水鳥湖沼ネットワークと連携しながら調査を継続し、越後平野内におけるコハクチョウの個体群動態の把握に努めていきたい。

なお本調査の実施や報告書の作成にあたり、様々な御指導をいただいた本間隆平氏に厚く御礼申し上げる。

##### 参考文献

・ガンカモ類の生息調査の成果物：環境省生物多様性情報システム HP

[http://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo\\_top.html](http://www.biodic.go.jp/gankamo/gankamo_top.html)

・田村智恵子「シジュウカラガン297羽の群れが阿賀野川に飛来」野鳥会報No77(2014)日本野鳥の会新潟県